

2018年3月期
第2四半期決算及び通期業績見通し
説明資料

帝人株式会社

2017年11月7日

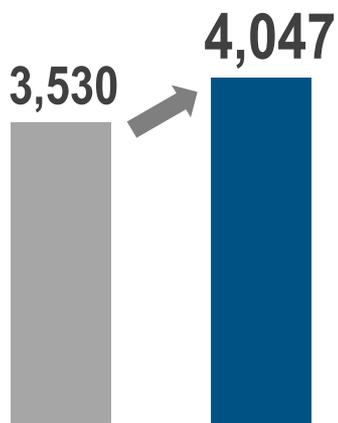
第 2 四半期決算概況

決算ハイライト

2017年度上期（前年同期比）

売上高

+14.6%

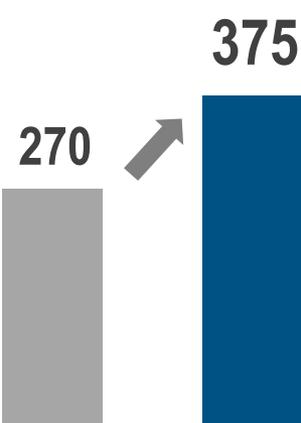


16年度上期 17年度上期

- 各事業の販売は総じて堅調に推移
- 複合成形材料分野のCSP社* 連結子会社化で増収

営業利益

+39.0%

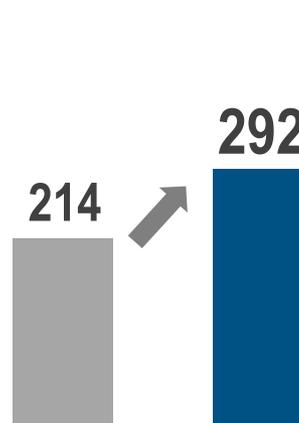


16年度上期 17年度上期

- アラミド繊維、樹脂の販売が好調
- 医薬品分野における新規アルツハイマー病治療薬候補化合物の導出対価受け取り

親会社株主に帰属する
四半期純利益

+36.6%



16年度上期 17年度上期

(単位：億円)

- 営業利益 増益
- 固定資産売却益を計上

(億円)

◆ 経営成績

	16年度 上期	17年度 上期	差異
売上高	3,530	4,047	+516
営業利益	270	375	+105
営業外損益	-3	4	+7
経常利益	267	379	+112
特別損益	-29	47	+75
税金等調整前 四半期純利益	238	426	+188
親会社株主に帰属する 四半期純利益	214	292	+78
ROE *1	14.1%	16.2%	+2.0%
営業利益ROIC *2	10.5%	11.9%	+1.3%
EBITDA *3	456	601	+145

	16年度 上期	17年度 上期	差異
設備投資 *4	179	177	-2
減価償却費	186	226	+39
研究開発費	195	176	-19

*1 「親会社株主に帰属する四半期純利益÷自己資本」にて算出

2 「営業利益÷投下資本」にて算出

* 純資産+有利子負債-現金および預金

※ *1, *2は年換算後の数値

*3 「営業利益+減価償却費(のれんを含む)」にて算出

*4 設備投資には無形固定資産を含む

◇ P L 換算レート

	16年度 上期	17年度 上期	差異
円/米ドル	105	111	+6
円/ユーロ	118	126	+8
米ドル/ユーロ	1.12	1.14	+0.01

(億円)

◆ 営業外損益

	16年度 上期	17年度 上期	差異
受取利息	3	5	+2
受取配当金	11	12	+1
デリバティブ評価益	—	3	+3
持分法による投資利益	25	8	-17
雑収入	3	6	+3
営業外収益 計	43	35	-8
支払利息	11	13	+3
為替差損	6	11	+5
デリバティブ評価損	19	—	-19
雑損失	10	7	-4
営業外費用 計	46	31	-15
営業外損益 計	-3	4	+7

◆ 特別損益

	16年度 上期	17年度 上期	差異
固定資産売却益	2	55	+53
事業構造改善 引当金戻入額	5	0	-5
その他	2	5	+3
特別利益 計	9	60	+51
固定資産除売却損	12	7	-5
減損損失	6	2	-4
投資有価証券評価損	1	0	-1
事業構造改善費用	15	2	-13
その他	4	2	-2
特別損失 計	38	13	-25
特別損益 計	-29	47	+75

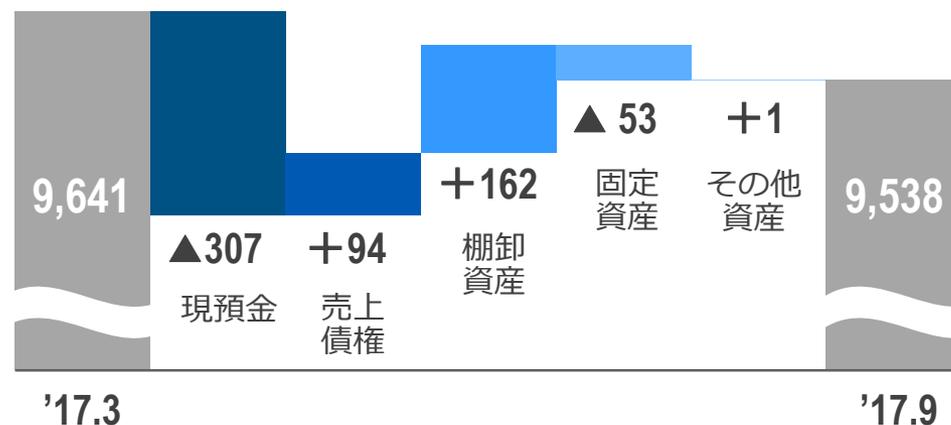
◆ 財政状態

(億円)	17年 3月末	17年 9月末	差異	内 為替 換算影響
総資産	9,641	9,538	-102	+123
自己資本	3,384	3,832	+448	+154
有利子負債	3,762	3,411	-351	+19
D/Eレシオ	1.11	0.89	-0.22	
自己資本比率	35.1%	40.2%	+5.1%	

◆ キャッシュ・フローの状況

(億円)	16年度 上期	17年度 上期	差異
営業活動	315	258	-57
投資活動	-188	-209	-20
フリー・キャッシュ・フロー	127	49	-78
財務活動ほか	-258	-356	-98
現金及び 現金同等物増減	-131	-307	-175

◇ 総資産 増減内訳 (億円)



◇ BS換算レート

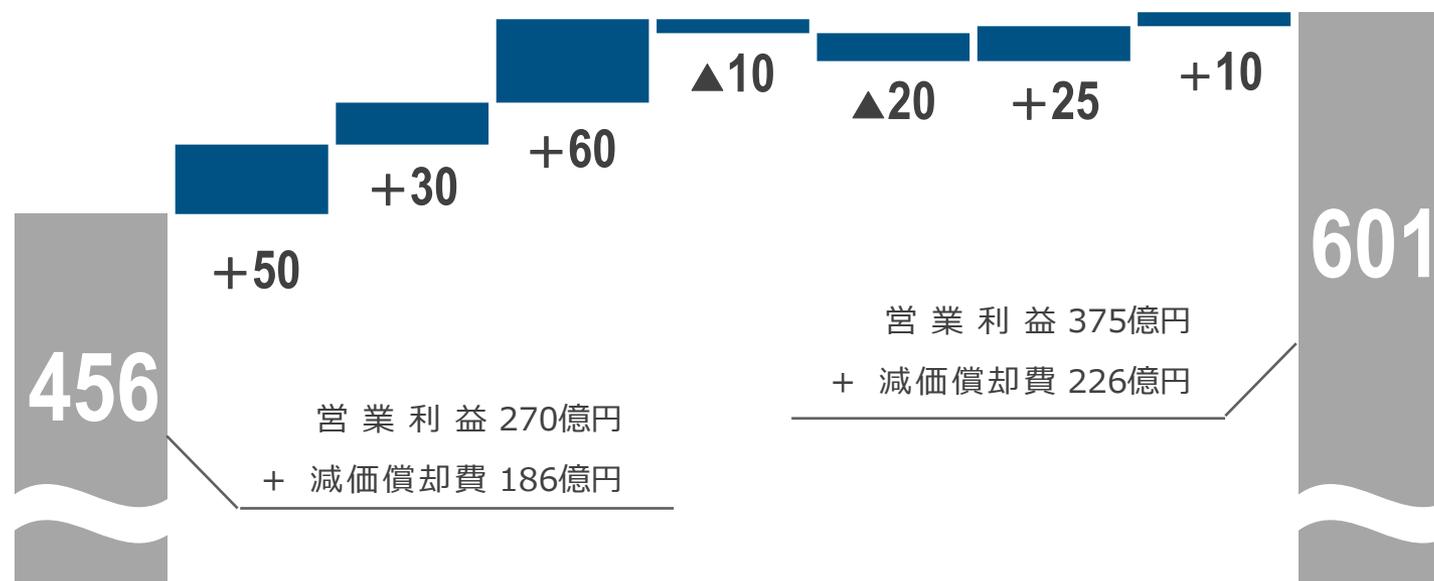
	17年 3月末	17年 9月末	差異
円/米ドル	112	113	+1
円/ユーロ	120	133	+13
米ドル/ユーロ	1.07	1.18	+0.11

◆ EBITDA*増減分析

前年同期対比
増益

- (+) アラミド繊維の自動車向け販売増
- (+) 医薬品分野におけるフェブリック販売増
- (+) 新規アルツハイマー病治療薬候補化合物の導出対価

(億円)



2016年度 上期	構造改革 ・コスト ダウン	治療薬 候補化合 物導出	販売量差	売値・ 構成差	原燃料 単価差	為替 影響	先行費用 ほか	2017年度 上期
--------------	---------------------	--------------------	------	------------	------------	----------	------------	--------------

* 「営業利益+減価償却費 (のれんを含む) 」にて算出

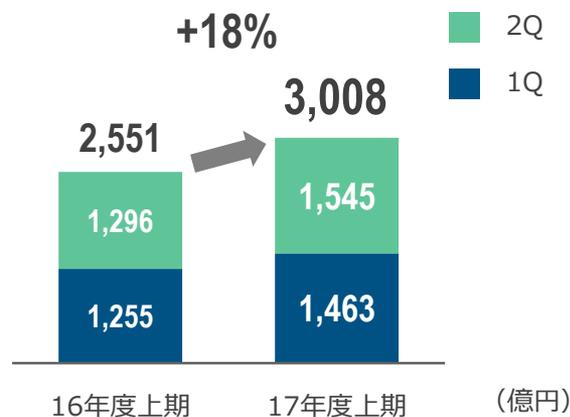
◆ セグメント別 売上高・営業利益比較（前年同期対比）

		(億円)	16年上期	17年上期	差異	増減率
売上高	マテリアル事業		1,114	1,234	+119	+11%
	繊維・製品事業		1,395	1,401	+6	+0%
	複合成形材料事業ほか		42	374	+332	+798%
	マテリアル 計		2,551	3,008	+458	+18%
	ヘルスケア		750	780	+30	+4%
	その他		229	258	+29	+13%
	合計		3,530	4,047	+516	+15%
営業利益	マテリアル		162	169	+7	+4%
	ヘルスケア		110	206	+97	+88%
	その他		19	29	+10	+52%
	消去又は全社		-21	-29	-8	—
	合計		270	375	+105	+39%

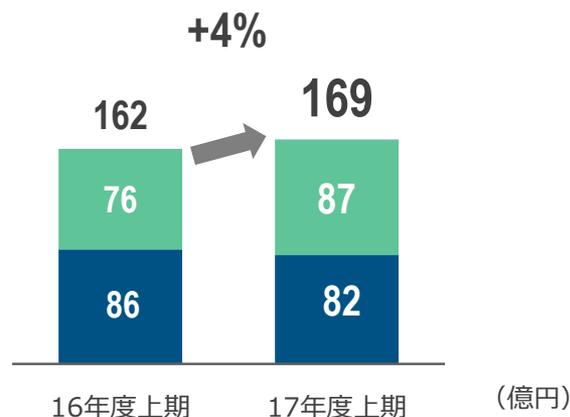
マテリアル

アラミド繊維が自動車向け等で好調
CSP社の連結子会社化により増収

売上高



営業利益



マテリアル事業

売上高1,234億円(前年同期比+119億円)

- アラミド繊維の自動車・インフラ関連向け販売増
- 炭素繊維の航空機用途向けの販売順調
- PC樹脂の需要堅調・販売構成の改善
- アラミド繊維の定修影響（前年同期は大規模定修有り）

繊維・製品事業

売上高1,401億円(前年同期比+6億円)

- ファッション用素材は苦戦も
欧米向けスポーツ・アウトドア用途が好調維持
- 日本・アジア向け自動車関連部材が堅調

複合成形材料事業ほか

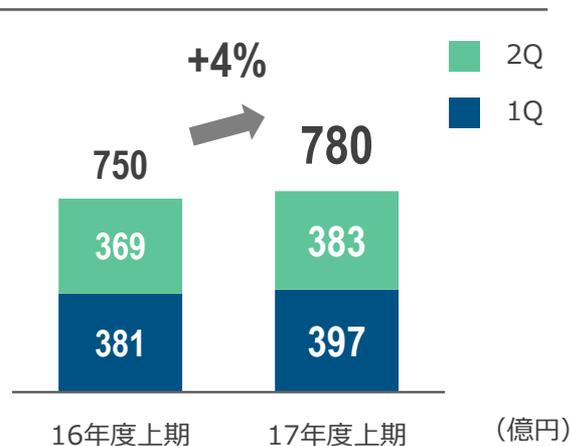
売上高 374億円(前年同期比+332億円)

- CSP社の連結子会社化で増収
- 電池部材でLIBセパレータの新規顧客拡大遅れ

ヘルスケア

主力製品・サービスの販売が順調に拡大し増収
米国在宅医療事業の撤収影響もあり増益

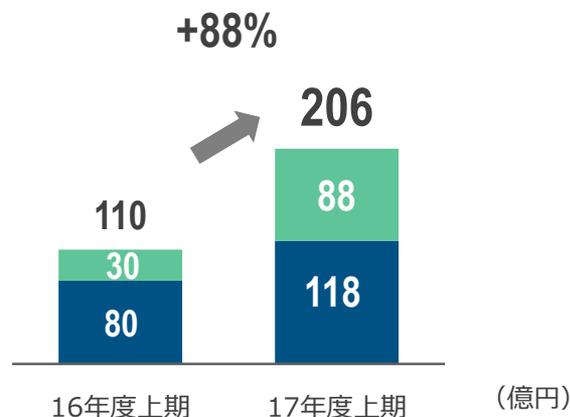
売上高



医薬品分野

- 長期収載品の厳しい環境続くも
高尿酸血症・痛風治療剤の販売が拡大
- 新規アルツハイマー病治療薬候補化合物の米メルク社への
導出に伴う対価を受け取り増益（本年5月）

営業利益



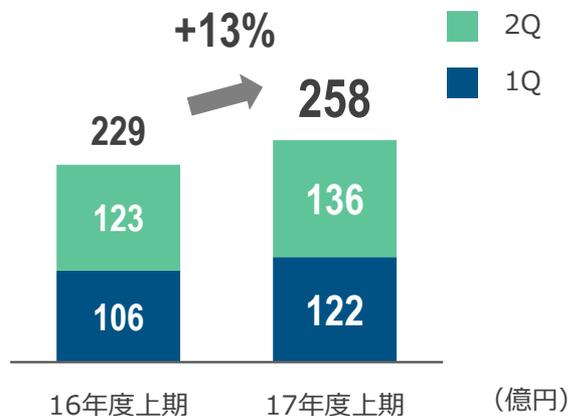
在宅医療分野

- H O T用酸素濃縮装置は高水準のレンタル台数を維持
睡眠時無呼吸症候群治療器（CPAP）はレンタル台数が伸長
- 米国事業からの撤退影響で減収・増益

その他

IT事業を中心に堅調

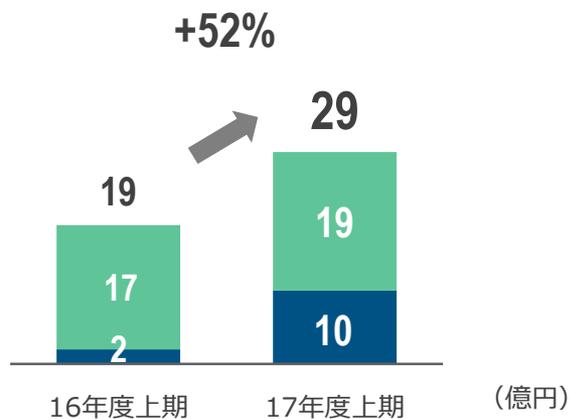
売上高



IT事業

- 電子コミック配信サービスの売上が順調に拡大
- ヘルスケア関連の病院・介護領域で、取り扱い案件数が増加

営業利益



2018年3月期 通期業績見通し

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出
 *2 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

*3 前回見通しは2017年8月1日公表

◆ 業績指標推移

ROE*1

EBITDA*2

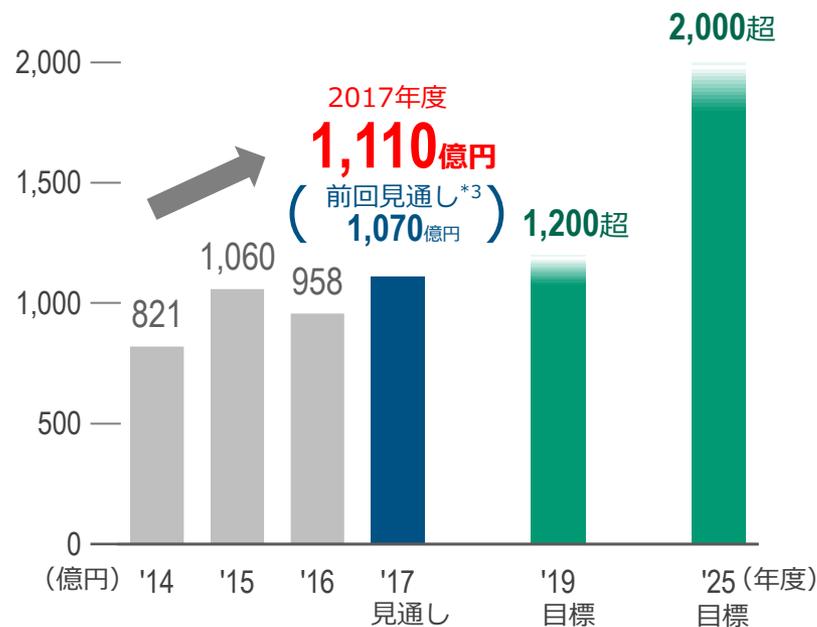
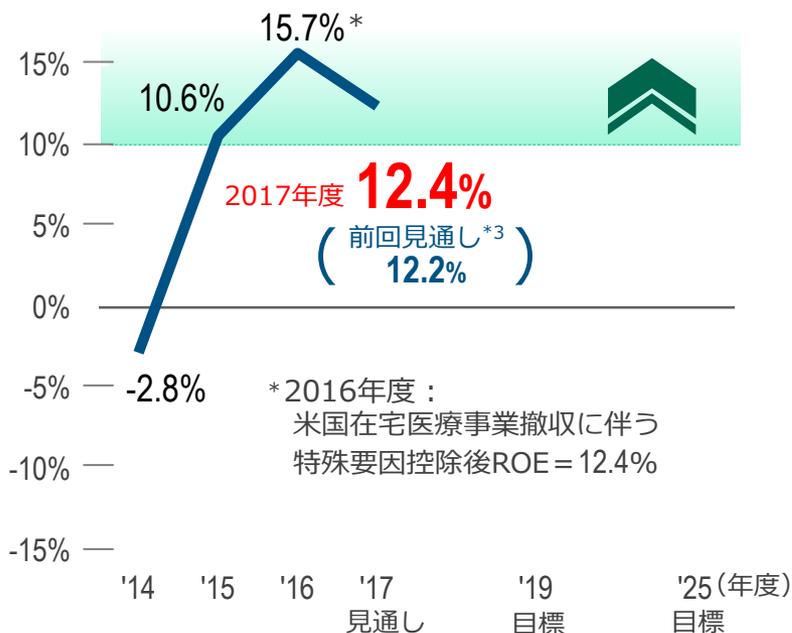
中期
目標

10%以上

2019年度 **1,200億円超**

2025年度 **2,000億円超**

推移



中期目標達成に向け 順調に業績拡大を継続

◆ 通期業績見通しの概況

(億円)	16年度 実績	17年度 見通し	差異	増減率	17年度 前回見通し* ²	前回見通し との差異
売上高	7,413	8,500	+1,087	+15%	8,550	-50
営業利益	565	680	+115	+20%	640	+40
経常利益	559	680	+121	+22%	650	+30
親会社株主に帰属する 当期純利益	501	450	-51	-10%	440	+10
営業利益ROIC * ¹	10.0%	10.7%	+0.7%	—	10.0%	+0.7%
リ・キャピ・コ	-486	100	+586	—	100	—
設備投資額	462	600	+138	+30%	600	—
減価償却費	393	430	+37	+9%	430	—
研究開発費	354	390	+36	+10%	420	-30

2017年度下期見通し 前提条件

通期為替レート 米ドル=110円、ユーロ=130円
原油価格(Dubai) 53米ドル/バレル

2017年度 配当金

中間 30円/株 期末 30円/株 年間 60円/株
(確定) (見通し*) (見通し*)

(*前回見通しから変更なし)

1 「営業利益÷投下資本」にて算出

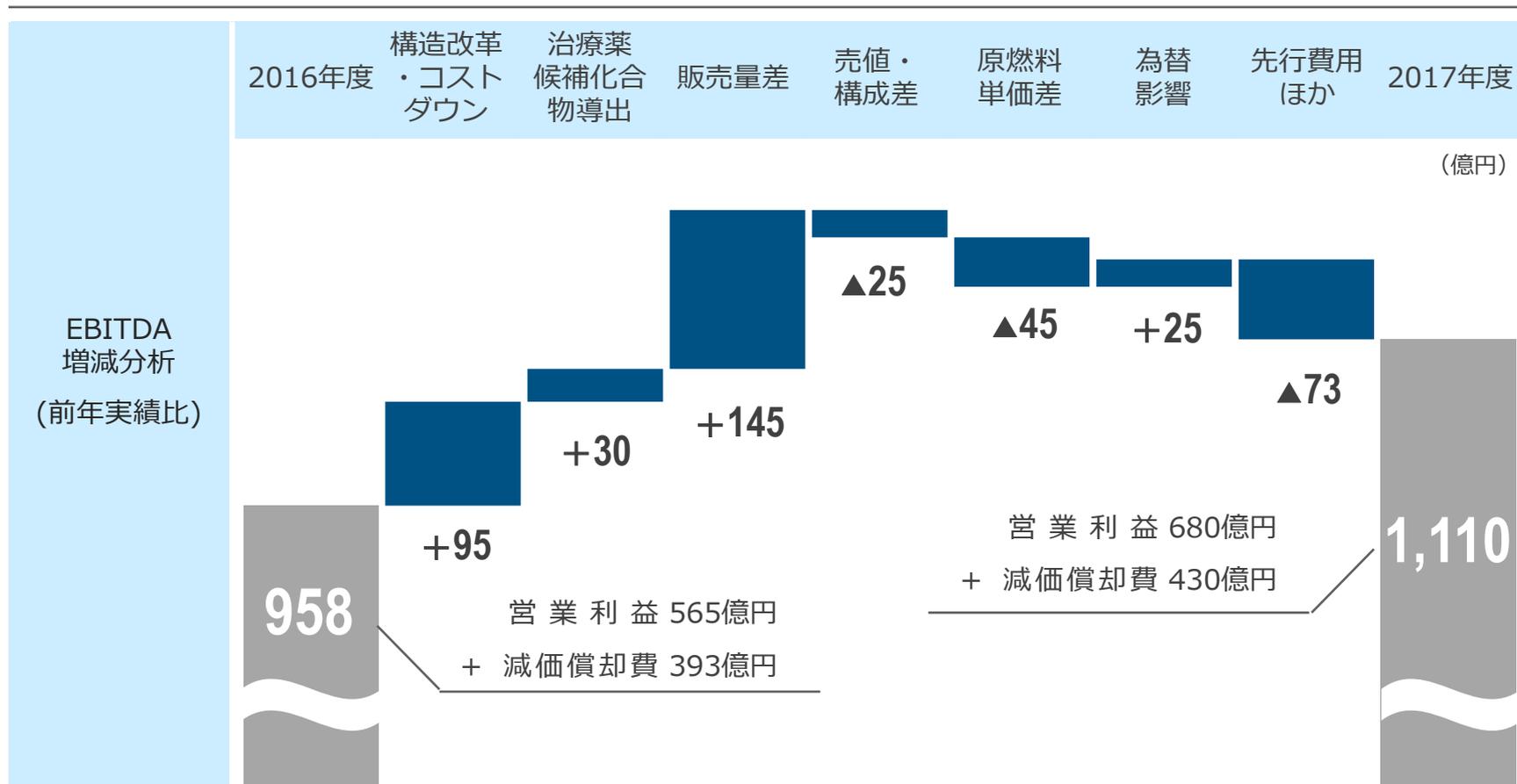
*投下資本=純資産+有利子負債-現金および預金

*2 前回見通しは2017年8月1日公表

◆ EBITDA*増減内訳 (前年実績対比)

前年実績対比
増益見通し

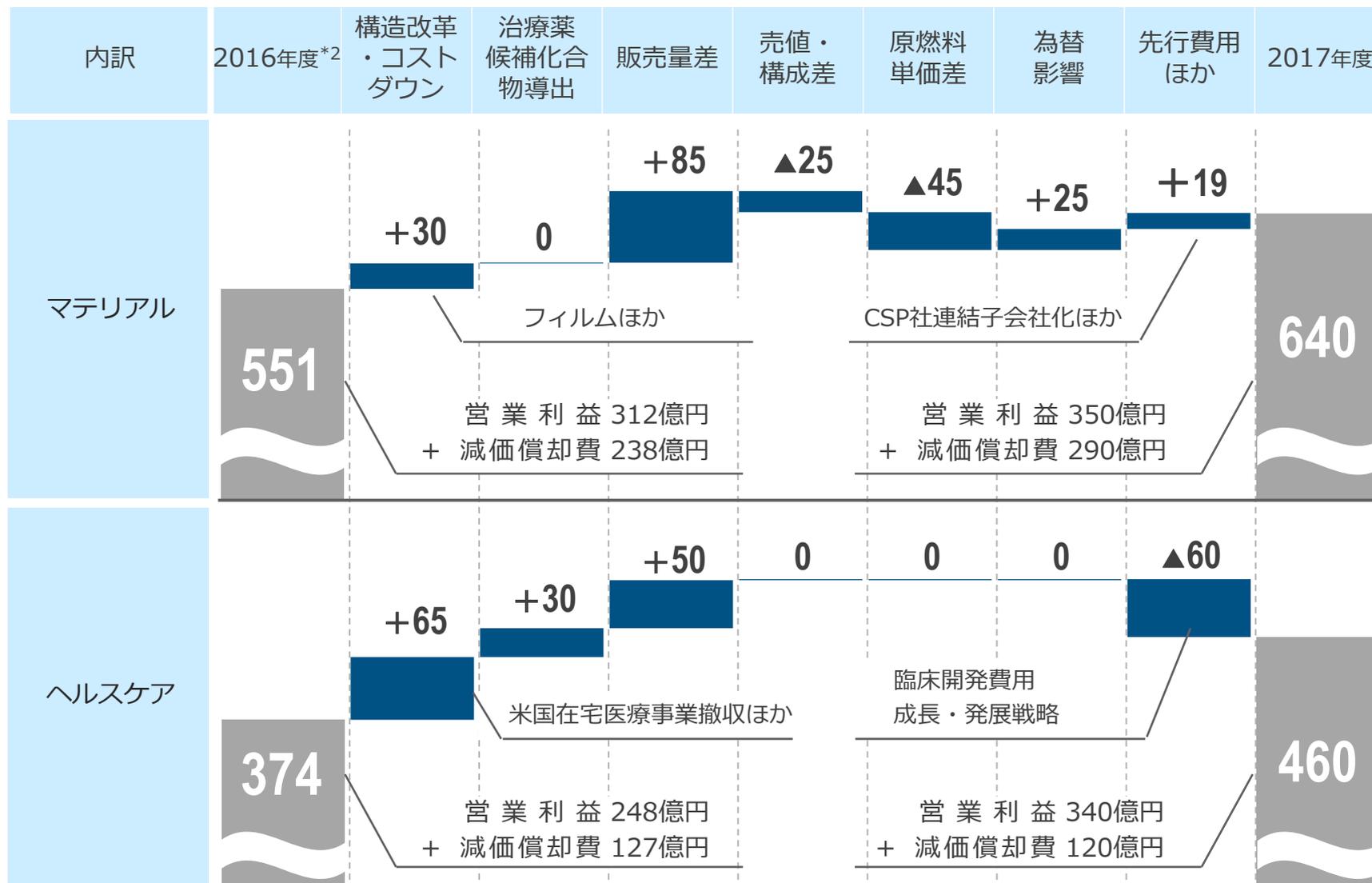
(+) 米国在宅医療事業等撤収による構造改革効果、主力製品の販売増
(-) 原燃料単価の上昇、ヘルスケア研究開発費等の先行費用増



* 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

◆ セグメント別 EBITDA*¹増減内訳 (前年実績対比)

(億円)



*1 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

*2 2016年度実績の各数値は、2017年5月9日公表後にセグメント間の調整を加えた結果、見直しを実施しております。

◆ セグメント別 経営指標

		16年度*1	17年度	差異	17年度	差異
		実績	今回見直し	前年実績対比	前回見直し*2	今回ー前回
EBITDA*3 (億円)						
	マテリアル	551	640	+89	640	—
	ヘルスケア	374	460	+86	420	+40
	その他	67	75	+8	70	+5
	全社・消去	-34	-65	-31	-60	-5
	合計	958	1,110	+152	1,070	+40

営業利益ROIC*4

(%)	マテリアル	10%	9%	-1%	9%	0%
	ヘルスケア	22%	27%	+5%	24%	+3%
	合計	10%	11%	+1%	10%	+1%

*1 16年度実績の各数値は、2017年5月9日公表後にセグメント間の調整を加えた結果、見直しを実施しております。

*2 前回見直しは2017年8月1日公表

*3 「営業利益+減価償却費(のれんを含む)」にて算出

4 「営業利益÷投下資本」にて算出 *投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金および預金

◆ セグメント別 売上高・営業利益推移 (前年実績対比)

		16年度実績*			17年度 今回見直し			差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	年間
(億円)								
売上高	マテリアル事業	1,114	1,166	2,281	1,234	1,216	2,450	+169
	繊維・製品事業	1,395	1,478	2,873	1,401	1,699	3,100	+227
	複合成形材料事業ほか	42	203	245	374	426	800	+555
	マテリアル 計	2,551	2,848	5,398	3,008	3,342	6,350	+952
	ヘルスケア	750	756	1,507	780	770	1,550	+43
	その他	229	278	508	258	342	600	+92
	合計	3,530	3,882	7,413	4,047	4,453	8,500	+1,087
営業利益	マテリアル	162	150	312	169	181	350	+38
	ヘルスケア	110	138	248	206	134	340	+92
	その他	19	34	53	29	26	55	+2
	消去又は全社	-21	-27	-48	-29	-36	-65	-17
	合計	270	295	565	375	305	680	+115

* 2016年度実績の各数値は2017年5月9日公表後にセグメント間の調整を加えた結果、見直しを実施しております。

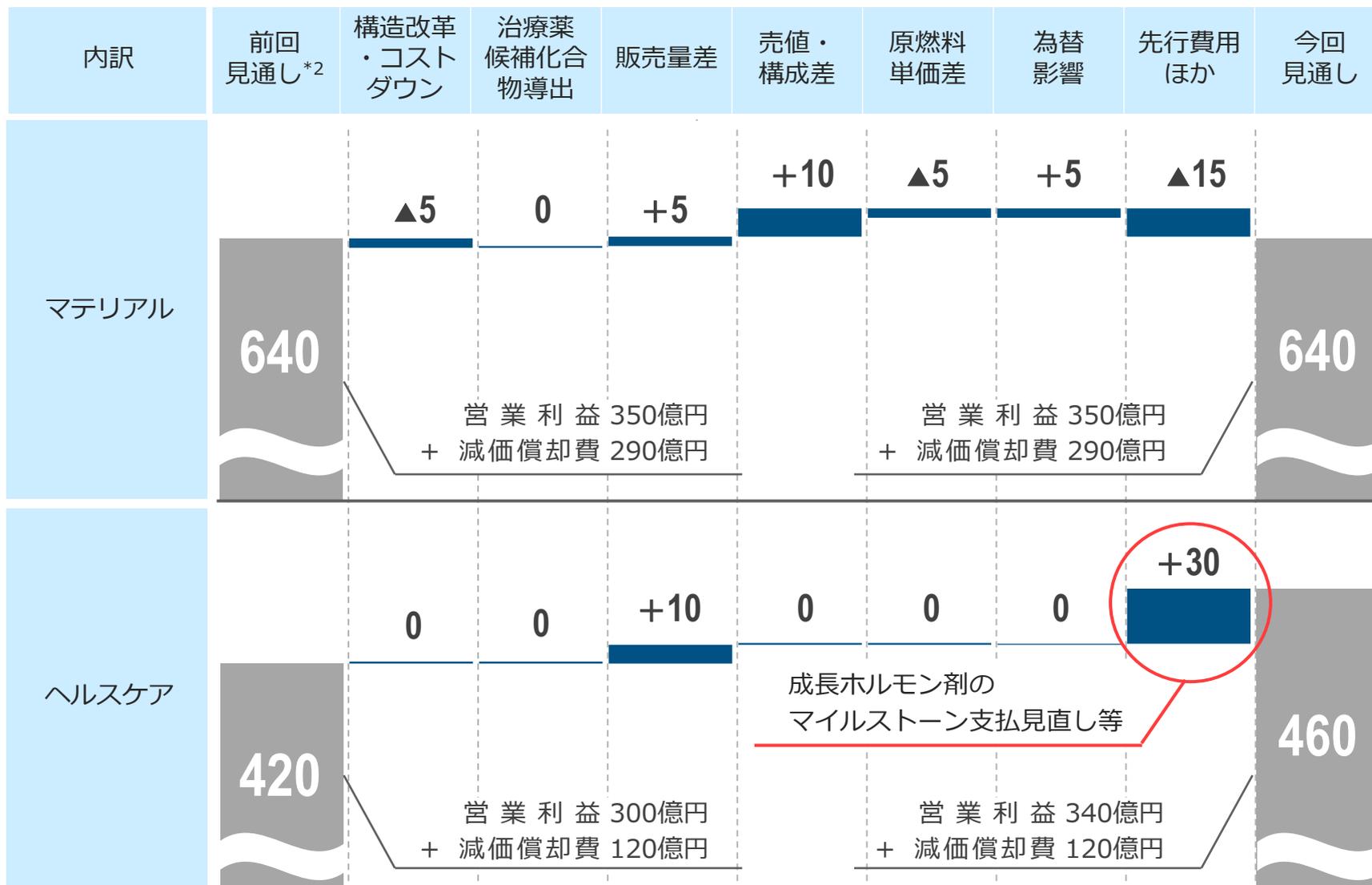
◆ セグメント別 売上高・営業利益推移 (前回見通し対比)

		17年度 前回見通し*			17年度 今回見通し			差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	年間
		(億円)						
売上高	マテリアル事業	1,200	1,200	2,400	1,234	1,216	2,450	+50
	繊維・製品事業	1,450	1,750	3,200	1,401	1,699	3,100	-100
	複合成形材料事業ほか	400	400	800	374	426	800	—
	マテリアル 計	3,050	3,350	6,400	3,008	3,342	6,350	-50
	ヘルスケア	800	750	1,550	780	770	1,550	—
	その他	300	300	600	258	342	600	—
	合計	4,150	4,400	8,550	4,047	4,453	8,500	-50
営業利益	マテリアル	150	200	350	169	181	350	—
	ヘルスケア	190	110	300	206	134	340	+40
	その他	20	30	50	29	26	55	+5
	消去又は全社	-30	-30	-60	-29	-36	-65	-5
	合計	330	310	640	375	305	680	+40

* 前回見通しは2017年8月1日公表

◆ セグメント別 EBITDA*1増減内訳 (前回見直し対比)

(億円)



*1 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

*2 前回見直しは2017年8月1日公表

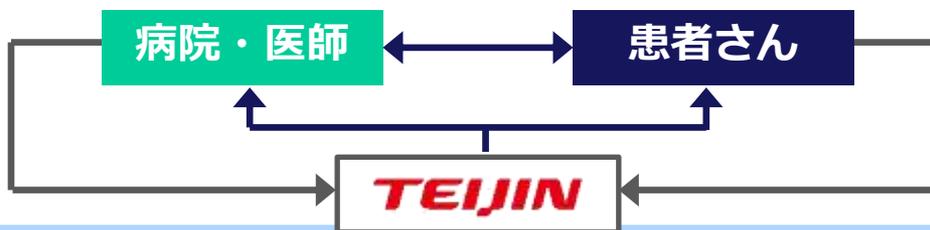
ヘルスケア発展戦略

新ヘルスケア事業基盤と発展戦略

ヘルスケア事業基盤

- <帝人の強み>
- ・ 在宅医療サービスを通じた患者さんへの直接アクセス力
 - ・ 医薬品、医療機器の規制を熟知した開発力
 - ・ インフォコムを通じたITヘルスケアの展開力

他企業にはない
帝人の独自性



医薬・在宅医療全国営業網	開発力（臨床データ取得・規制対応）
訪問看護ステーション・コールセンター	ITネットワーク・データ蓄積

事業基盤を活かして発展戦略を創出・育成

ヘルスケア発展戦略

2025年売上目標 : 約1,500億円

2~3割
新規医療機器(ほか)

1~2割
デジタルヘルスケア

2~3割
埋め込み型医療機器

2~3割
機能性食品素材

公的保険内/外

公的保険内

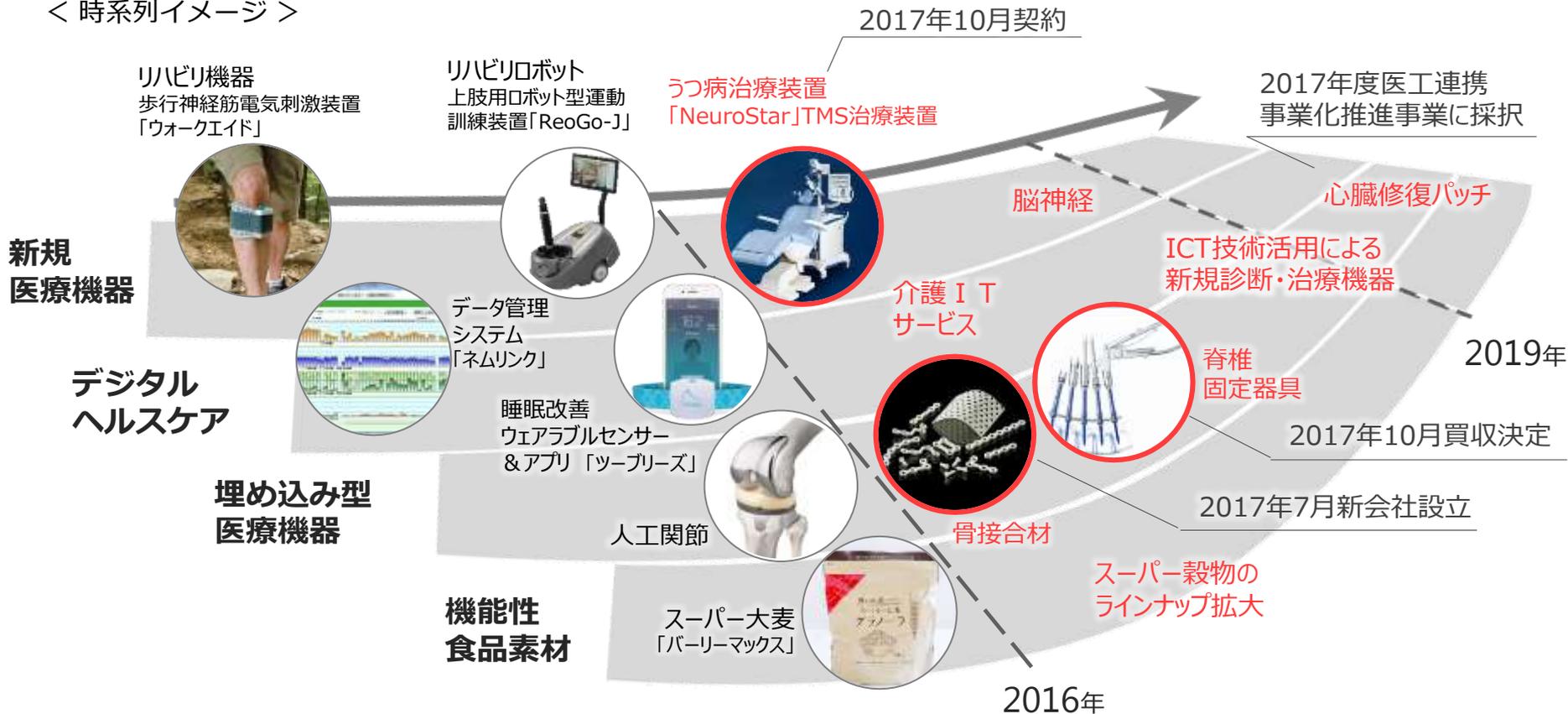
公的保険外

健康志向、予防・未病にも対応

ヘルスケア発展戦略

新ヘルスケア事業の拡大に向けた進捗状況

< 時系列イメージ >

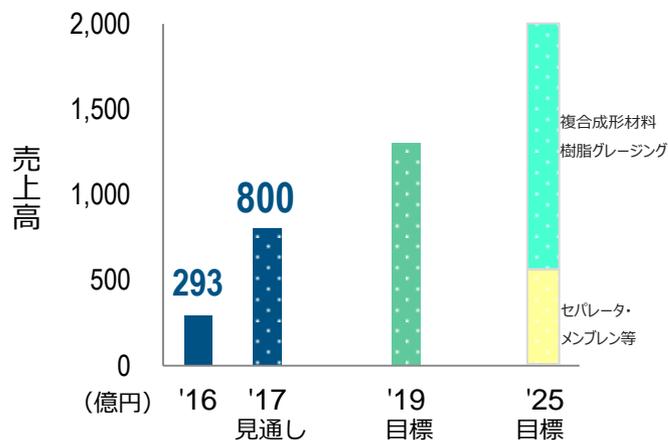


発展戦略の完遂に向けた新規分野でのビジネス獲得は順調に進捗中

発展戦略の進捗と見通し

中期計画通りに進捗中

マテリアル 発展戦略



複合成形材料

- ・北米地域の自動車用途でCSP社製複合材料の**販売が堅調**
- ・主力の外装材からバッテリーケースまで品揃え**拡大中**

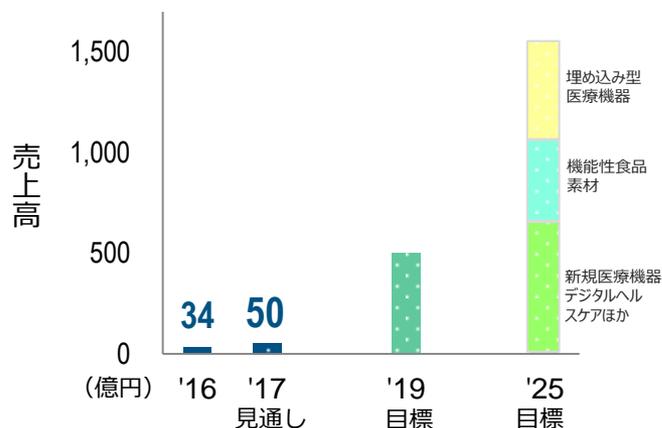
樹脂グレージング

- ・**新規コーティング技術**の事業展開推進
- ・市販車にフロントウィンドウが搭載

LIBセパレータ

- ・民生用途：**アジア顧客**も含め幅広く販路を拡大
- ・車載用途：顧客と共同で**評価作業を推進中**

ヘルスケア 発展戦略



埋め込み型医療機器

- ・本年7月に**帝人メディカルテクノロジー(株)**を設立
- ・10月に**センチュリーメディカル(株)**の**脊椎事業の買収を決定**
- ・2020年売上高100億円達成に向け事業拡大加速

機能性食品素材

- ・**大手食品メーカー**との連携、採用拡大
- ・新規スーパー穀物の探索推進

新規医療機器 デジタルヘルスケアほか

- ・10月に**うつ治療装置「NeuroStar」**の国内独占販売権を取得
- ・**RFID棚管理システム「レコピック」**の病院展開拡大

見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

事業等のリスク

業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

1. 競合・市況変動にかかるもの

帝人グループは市況製品を展開しており、景気動向、他社との競合に伴う市場価格の変動、購入原燃料の価格変動、また為替、金利といった相場の変動が事業業績に影響を及ぼす可能性があります。

2. 製品の品質にかかるもの

事業活動全般において品質保証を確保する体制を敷いていますが、製品・サービスの欠陥が業績、財務状況、社会的評価等に悪影響を及ぼす可能性があります。

3. 研究開発にかかるもの

研究開発に対し積極的に経営資源を投入していますが、特に医療用医薬品の開発には、多額の費用と長い期間がかかるうえ、創薬研究において、有用な化合物を発見できる可能性は決して高くありません。また、種々の要因により承認申請を断念しなければならない可能性があります。また、承認申請した後でも承認が取り消されることがあります。

4. 海外活動にかかるもの

海外での活動について為替変動に係るリスクのほか、予期しない法律・規制の施行、不利な影響を及ぼす租税制度の変更、経済変動、政変・テロ・戦争等による社会的混乱により、経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

5. 事故・災害にかかるもの

大規模な自然災害や不慮の事故等により生産設備が損害を受けた場合や原材料の供給等サプライチェーンに大きな障害が生じた場合は帝人グループの経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

◆ 主要経営指標推移

	13年度 実績	14年度 実績	15年度 実績	16年度 実績	17年度 見通し
ROE*1	3.0%	-2.8%	10.6%	15.7%	12.4%
営業利益ROIC *2	3.4%	7.1%	12.7%	10.0%	10.7%
EBITDA (億円) *3	637	821	1,060	958	1,110
1株当たり当期純利益 (円) *4	42.5	-41.1	158.1	254.9	228.7
1株当たり配当金 (円) *4	20	20	35	55	60
総資産 (億円)	7,684	8,237	8,234	9,641	9,700
有利子負債 (億円)	2,815	3,082	3,033	3,762	3,500
D/Eレシオ *5	1.00	1.07	1.01	1.11	0.9
自己資本比率	36.7%	34.9%	36.4%	35.1%	39.7%

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

2 「営業利益÷投下資本」にて算出

*純資産+有利子負債-現金および預金

*3 「営業利益+減価償却費(のれんを含む)」にて算出

*4 株式併合による株数の変化を反映したベースで記載

*5 「有利子負債÷自己資本」にて算出

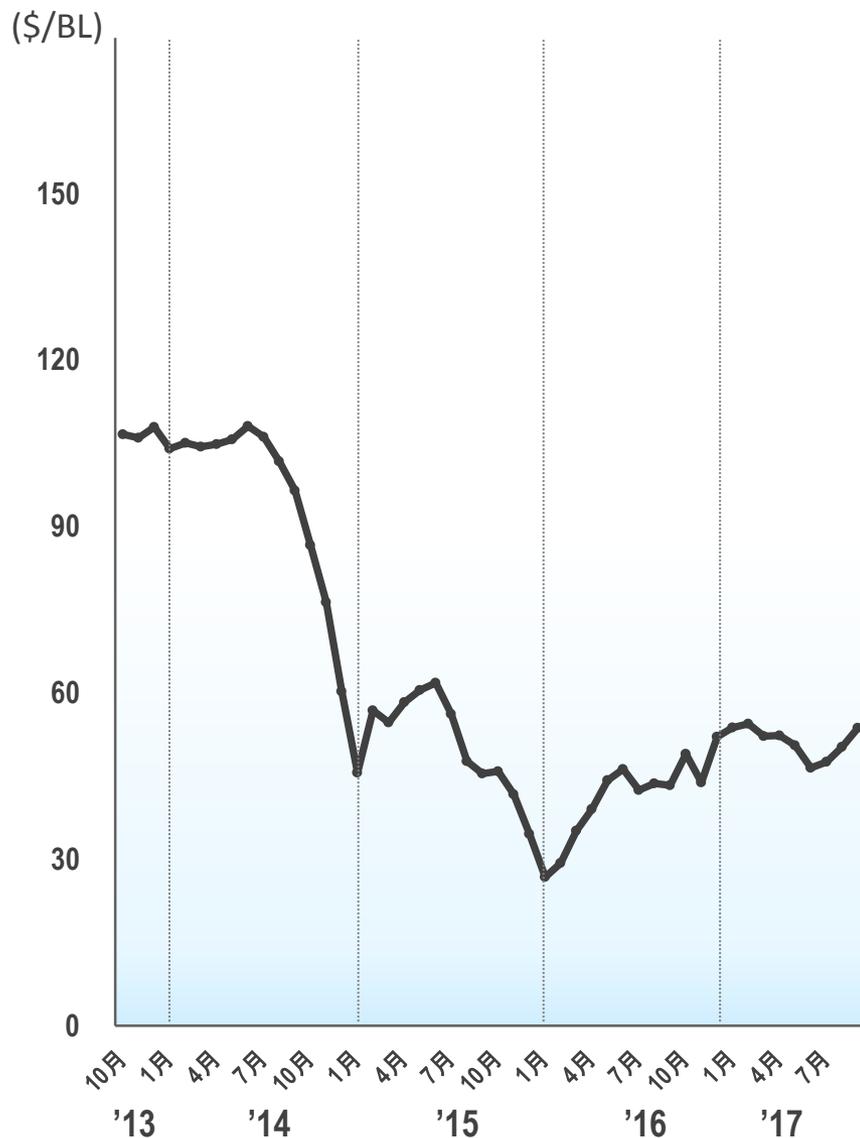
◆ 連結貸借対照表

(億円)	15年	16年				17年		
	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末
資産								
流動資産	4,150	4,305	4,137	4,036	5,096	4,668	4,736	4,595
固定資産	4,069	3,929	3,761	3,762	3,962	4,973	4,987	4,943
合計	8,219	8,234	7,898	7,797	9,058	9,641	9,723	9,538
負債・純資産								
負債	4,918	5,090	4,855	4,632	5,515	6,122	5,966	5,560
(内 有利子負債)	2,811	3,033	2,978	2,762	3,437	3,762	3,862	3,411
純資産	3,301	3,144	3,043	3,165	3,543	3,518	3,757	3,978
合計	8,219	8,234	7,898	7,797	9,058	9,641	9,723	9,538

◆ 連結損益計算書 (億円)	16年度				17年度		差異
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	17/2Q-16/2Q
売上高	1,742	1,788	1,821	2,061	1,982	2,064	+276
売上原価	1,131	1,182	1,196	1,420	1,313	1,398	+216
売上総利益	612	606	625	641	669	666	+60
販管費	455	493	459	512	478	483	-11
営業利益	157	113	166	129	191	184	+71
営業外損益	-13	10	25	-27	9	-5	-15
(内 金融収支)	7	-3	2	-3	7	-4	-1
(内 持分法投資損益)	8	17	-2	-3	3	5	-12
経常利益	144	123	191	102	200	179	+56
特別損益	-6	-22	-15	-176	-5	51	+74
税金等調整前 四半期純利益	138	100	176	-75	196	230	+130
法人税等	22	-2	46	-241	60	64	+66
非支配株主に帰属する 四半期純利益	1	3	3	6	2	8	+5
親会社株主に帰属する 四半期純利益	114	99	127	161	134	158	+59

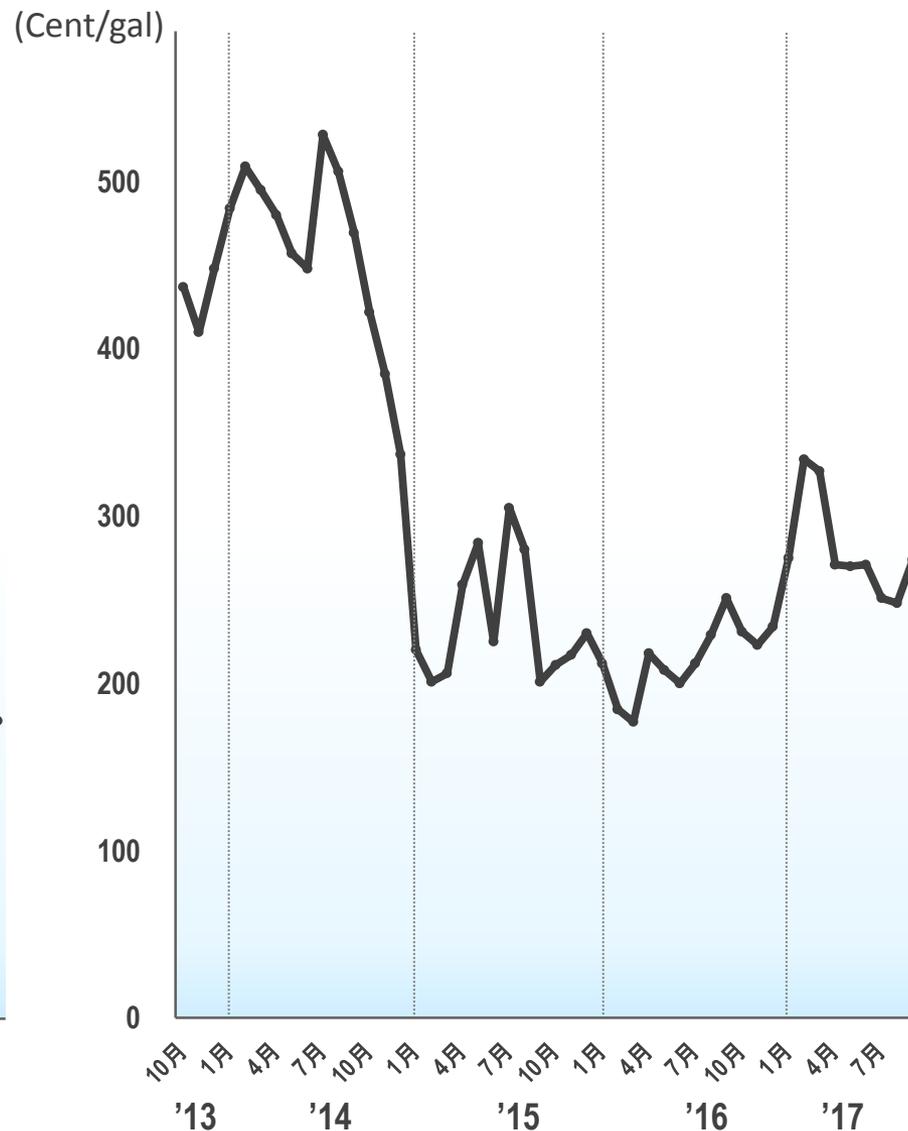
* 詳細については決算短信をご覧ください

◆ ドバイ原油価格推移



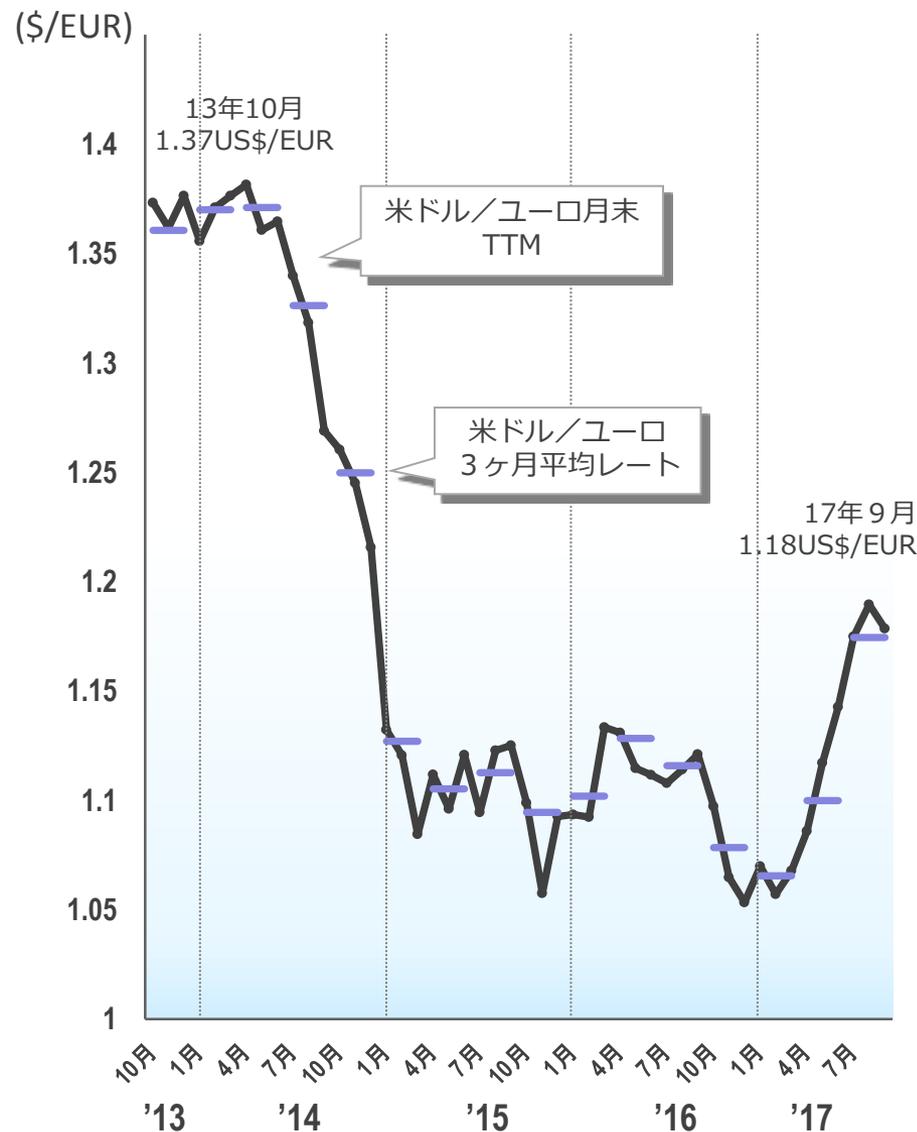
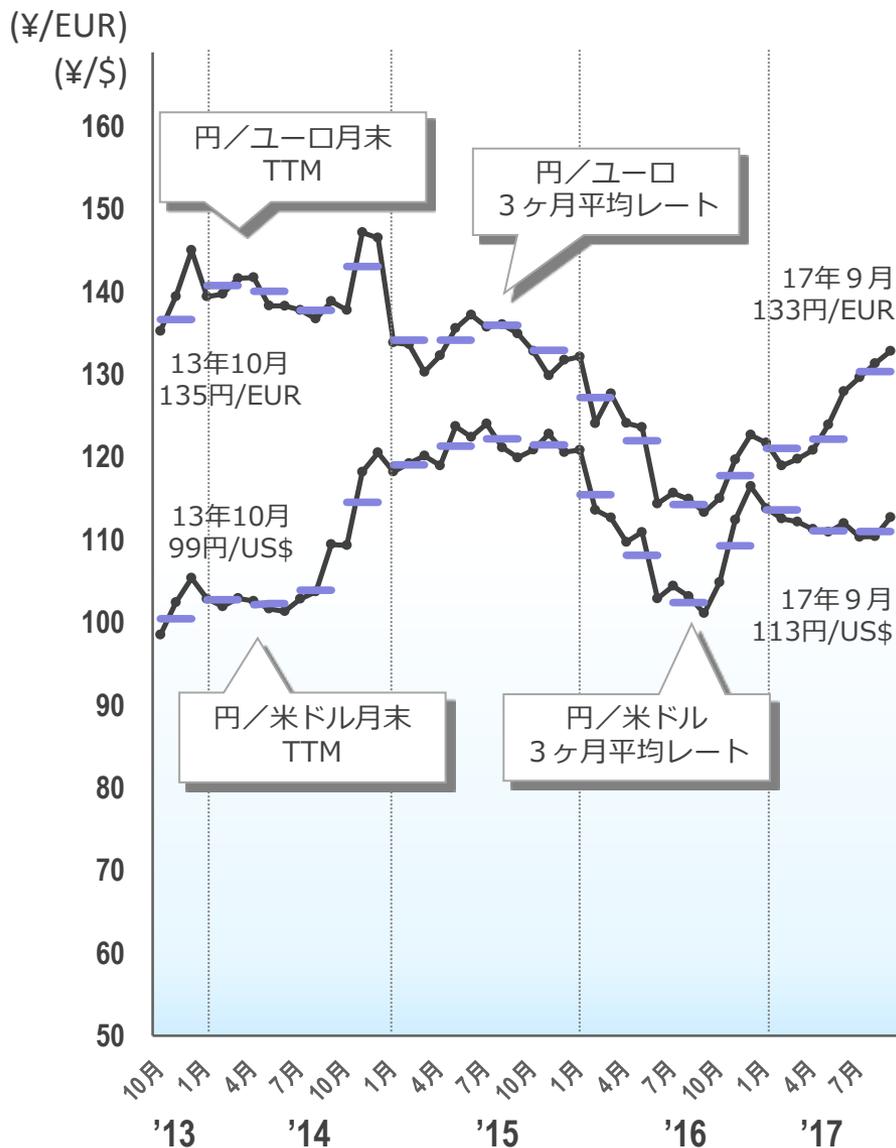
【出所：Platt's社のDATAを基に弊社推定】

◆ ベンゼン価格推移



【出所：BZ DewittのDATAを基に弊社推定】

◆ 円/米ドル、円/ユーロ為替レート推移



◆ 主要医薬品 売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	16年度					17年度	
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q
ボナロン®*1	骨粗鬆症治療剤	31	28	31	25	116	28	28
ワンアルファ®	骨粗鬆症治療剤	10	9	10	8	37	9	9
骨粗鬆症治療剤 計		41	38	41	33	153	37	36
フェブリク®	高尿酸血症・痛風治療剤	64	64	75	63	265	74	75
ベニロン®	重症感染症治療剤	10	12	14	11	47	13	13
ムコソルバン®	去痰剤	14	13	17	13	58	13	12
ソマチュリン®*2	先端巨大症及び下垂体性巨人症、 瘰・消化管神経内分泌腫瘍治療剤	4	4	5	4	17	4	6
ロコア®	経皮吸収型鎮痛消炎剤	2	2	3	3	10	5	5
ラキソベロン®	緩下剤	5	5	5	4	20	4	5
トライコア®	高脂血症治療剤	4	4	4	4	15	4	4
オルベスコ®	喘息治療剤	3	3	3	3	12	3	3

*1 ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp. (米)の登録商標です。

*2 ソマチュリン®/Somatuline® は Ipsen Pharma (仏) の登録商標です。

◆ 疾患分野別臨床開発段階 (2017年9月末現在)

	臨床開発段階				
	Phase I	Phase II	Phase III	申請	承認／ 新規上市
骨・関節 領域		KTP-001	ITM-058		
呼吸器 領域		PTR-36			
代謝・ 循環器 領域	TMX-049DN	TMX-049 TMG-123	STM-279 VRS-317	TMX-67	ITM-014N*
その他			GGs-ON, -MPA, -CIDP		

* 承認／新規上市は直近1年間を記載

* ソマチュリン®の適応拡大プロジェクトとして開発中のITM-014Nは、2017年7月「膵・消化管神経内分泌腫瘍」に対する適応追加の承認を取得

◆ 新規開発医薬品 (2017年9月末現在)

【承認/新規上市】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-014N (ランレオチド酢酸塩)	膵・消化管神経 内分泌腫瘍	ソマトスタチン受容体を介したアポトーシスの誘導 (直接的作用) や細胞栄養因子の分泌制御 (間接的作用) を介した作用により、神経内分泌腫瘍の進展抑制や諸症状の改善が期待される。	注射	導入： 仏イプセン社 (効能・効果追加) 2017年7月承認取得

【承認申請】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TMX-67 (フェブキソスタット)	高尿酸血症・ 痛風	国内販売しているフェブリク錠を中国に導出する。本剤は、強力な尿酸生成抑制効果に加え、腎機能低下等により既存治療薬を使うことのできなかつた患者へも使用が可能であり、中国における高尿酸血症・痛風治療の新たな選択肢として、高尿酸血症・痛風患者のQOL (Quality of Life) 向上に貢献できることが期待される。	錠剤	共同開発： アステラス製薬 (中国) 有限公司 2015年11月承認申請

◆ 新規開発医薬品 (2017年9月末現在)

【Phase III】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-058	骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と安全性（高カルシウム血症のリスク低減）が期待できる。	注射	導入： 仏イプセン社
STM-279	ADA（アデノシン・デアミンナーゼ）欠損症	本剤（ポリエチレングリコール修飾遺伝子組換えウシADA類縁体）は、ADA欠損症患者にADAを補充することで、リンパ球の減少を抑える注射剤であり、重症複合免疫不全症（SCID）の発症を回避することが期待される。	注射	導入： 英シグマタウ社
VRS-317	小児・成長ホルモン分泌不全性低身長症	ポリペプチドを融合し、長期作用性を有する組換えヒト成長ホルモン。ヴェルサーティス社による米国Ph-2試験において、毎日注射する必要がある既存製剤と同様の効果を月2回の注射で得られることが示されている。	注射	導入： 米ヴェルサーティス社 Ph-2/3試験の第3相期を実施中
GGG-ON (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	視神経炎	本剤の免疫調節作用により、視神経の炎症を抑制し、視機能を改善することが期待される。	注射	共同開発：化血研 (効能・効果追加)
GGG-MPA (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害（多発性単神経炎）を改善することが期待される。	注射	共同開発：化血研 (効能・効果追加)
GGG-CIDP (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	慢性炎症性脱髄性多発神経炎	本剤の免疫調節作用により、末梢神経の炎症を抑制し、低下した筋力を改善することが期待される。	注射	共同開発：化血研 (効能・効果追加)

◆ 新規開発医薬品 (2017年9月末現在)

【Phase II】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
KTP-001	腰椎椎間板ヘルニア	腰椎椎間板ヘルニアに対する化学的髄核融解療法剤。 生体内でヘルニアの自然退縮に関わる酵素（マトリックスメタロプロテアーゼ）と同じ構造のヒト型タンパク質であることからアレルギー反応のリスクが少なく、選択的に作用するため、椎間板周囲組織の傷害性が低いと期待される。手術に代わる低侵襲性の治療法の選択肢を広げることができる。	注射	発明者： 波呂浩孝氏、 小森博達氏 共同開発：化血研
PTR-36	気管支喘息	新規作用機序（CRTh2拮抗作用）によって喘息症状をコントロールする長期管理薬。 単剤による吸入ステロイドと同等の治療効果（軽症患者）や吸入ステロイドとの併用による十分な治療効果（軽症～重症の患者）が期待される。	錠剤	導入： 英プルマジェン・セラピューティクス（アズマ）リミテッド社
TMX-049	高尿酸血症・痛風	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。新規高尿酸血症治療薬として、有効性と安全性に優れることが期待される。	錠剤	自社開発品
TMG-123	2型糖尿病	新規作用機序（肝優位型GK活性化作用）による血糖コントロール薬。 血糖コントロールが不十分な患者で有効性が期待されるほか、高い利便性（1日1回投与、腎機能低下患者で用量調節の必要性低い、薬物相互作用の懸念が少ない等）が期待される。	錠剤	自社開発品

◆ 新規開発医薬品 (2017年9月末現在)

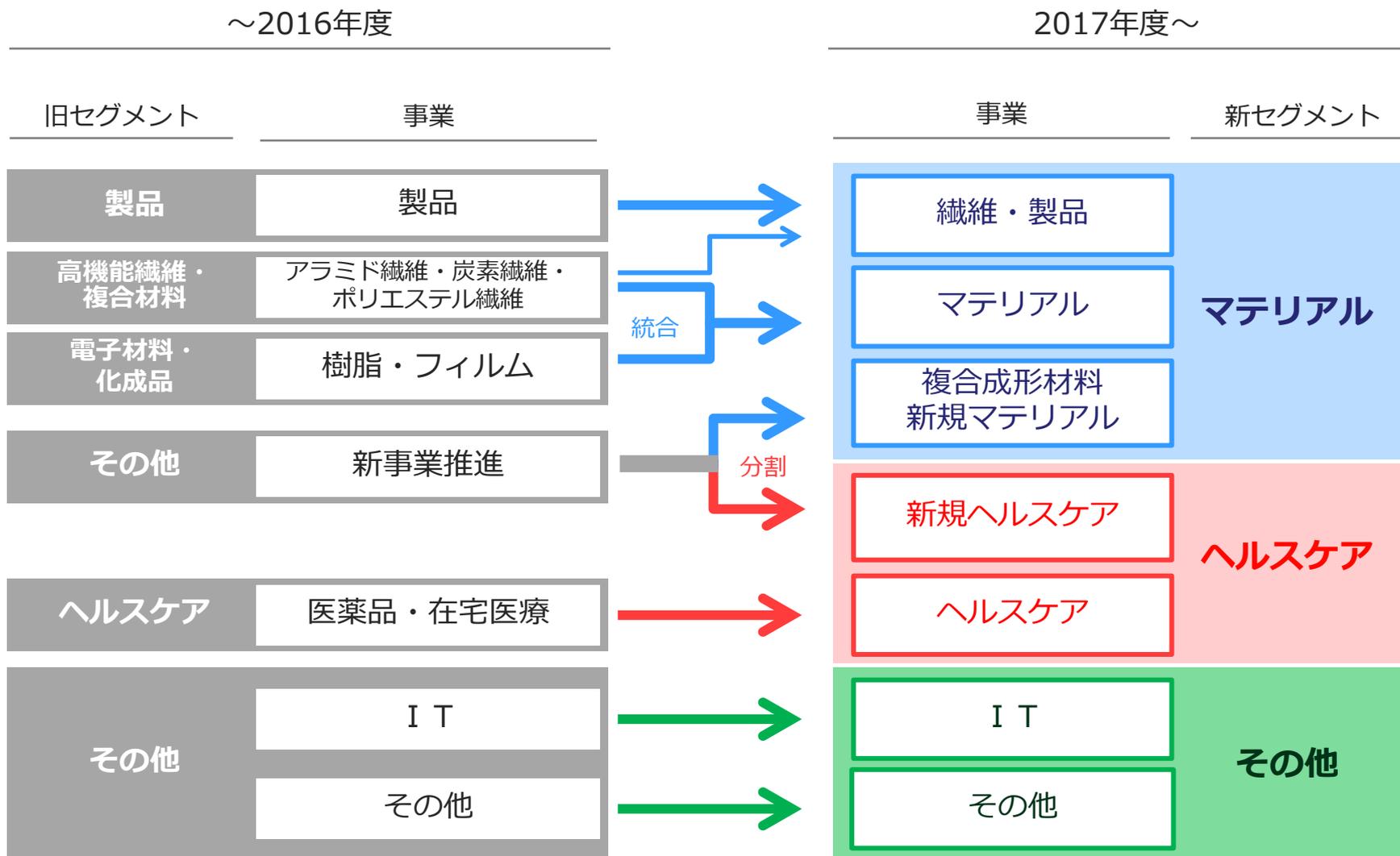
【Phase I】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TMX-049DN	2型糖尿病における糖尿病性腎症	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。新規糖尿病性腎症治療薬として、腎症の進展抑制が期待される。	錠剤	自社開発品

◆ 導入品目の状況 (直近3年間を記載)

導入契約	導入元	内 容
2015年3月	大正製薬(株)	変形性関節症の鎮痛・消炎を適応症とした、エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤TT-063の国内における販売権許諾契約を締結 (2015年9月 : 大正製薬(株)が製造販売承認を取得) (2016年1月 : 「ロコア」として大正富山医薬品(株)と共同販売を開始)

◆ 組織再編 (開示セグメントの変更)



TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions

Human Chemistry, Human Solutions

テイジンブランドの約束を“Human Chemistry, Human Solutions”と表現します。

この約束は、「人と地球環境に配慮した化学技術の向上と、社会と顧客が期待している解決策を提供することで本当の価値を実現することに挑戦し続けること」を意味しています。

私たちはこの約束を確実に成し遂げ、企業理念であるQuality of Lifeの向上に努め、社会と顧客から信頼される企業グループであり続けます。